

(A)

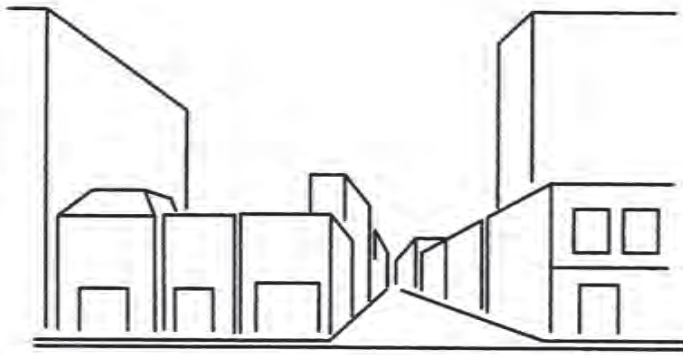
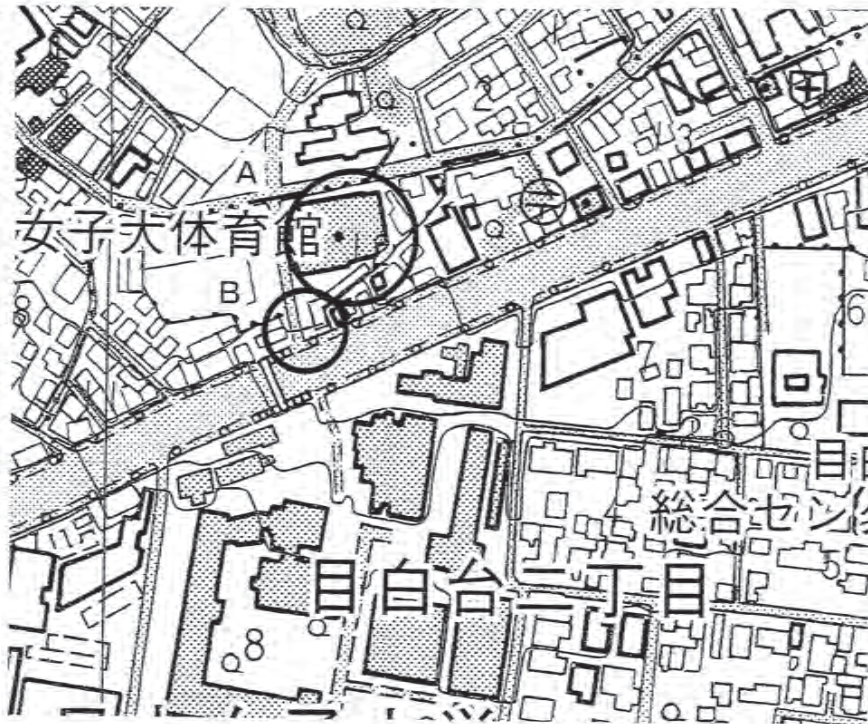


図2 横から見た普段見慣れている風景(上)
と上から見た一般的な地図(右)



1

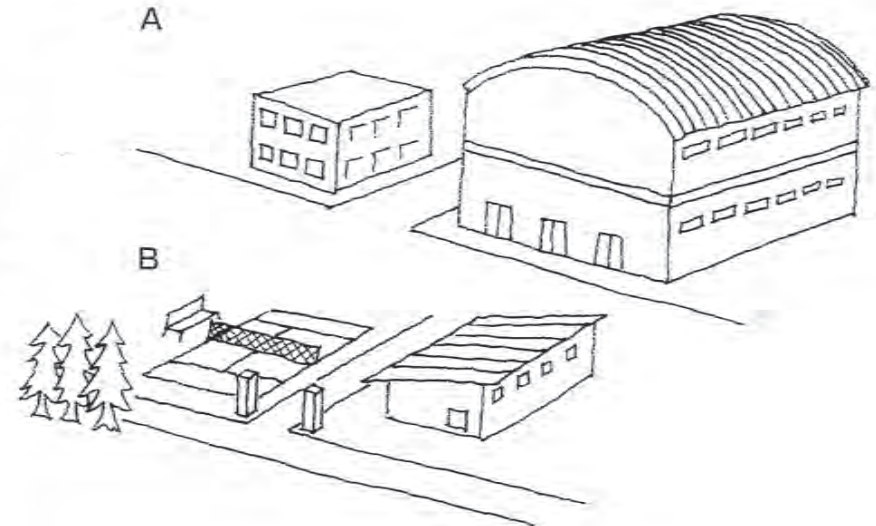
(B)



Aの囲みが体育館、Bの囲みが路地の入り口のT字路。

図3 Tさんが目印にした体育館と道筋

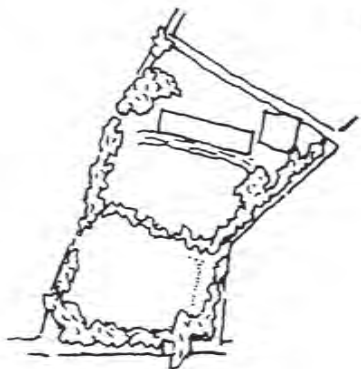
(C)



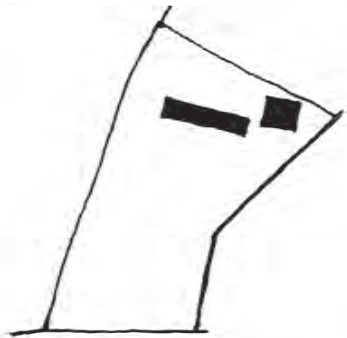
TさんがイメージしたT字路と体育館はAのようなものだが、実際にはBのように、路地は曖昧で体育館はそれらしくなかった。

図4 イメージと現実のギャップ

A



B



同現地写真 / 交番は道路の右側にある

B

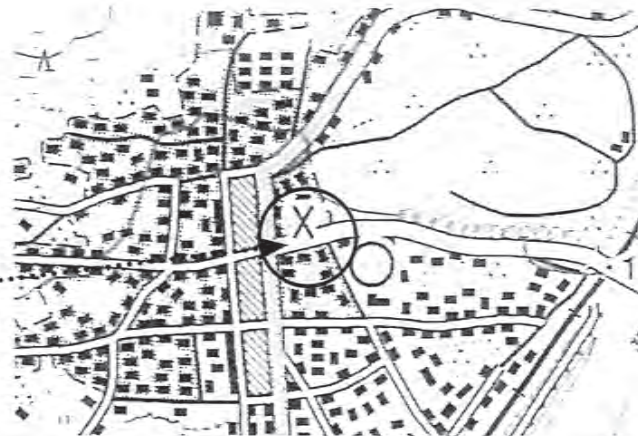
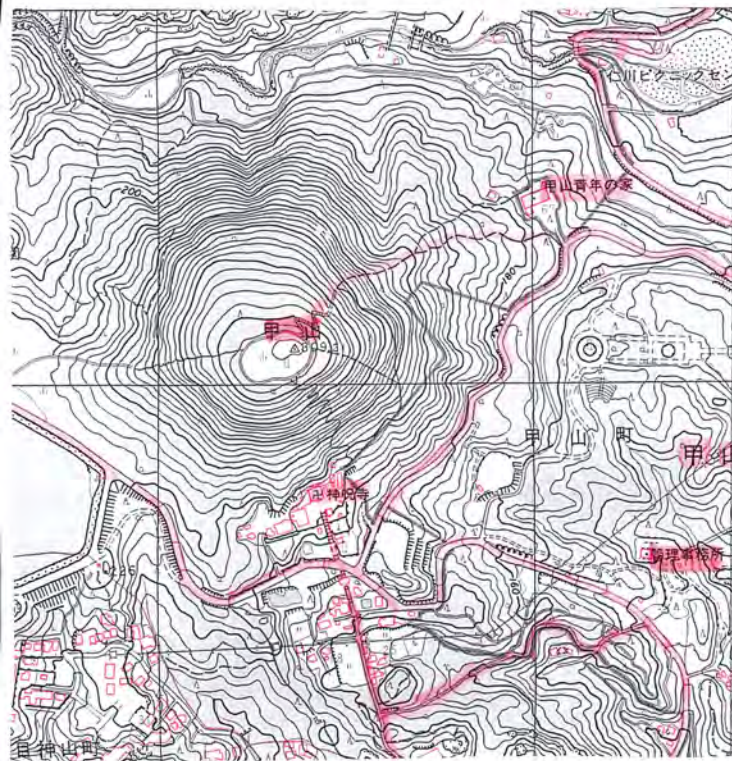


図 35 道路の反対側に表示された交番の記号
国土地理院発行 1/25000 地形図『家山』

AとBは同じ場所だろうか。
AとCではどうだろう。

図 8 詳細さの度合いが違っていると判断の確信度も違う



1:10.000

甲山



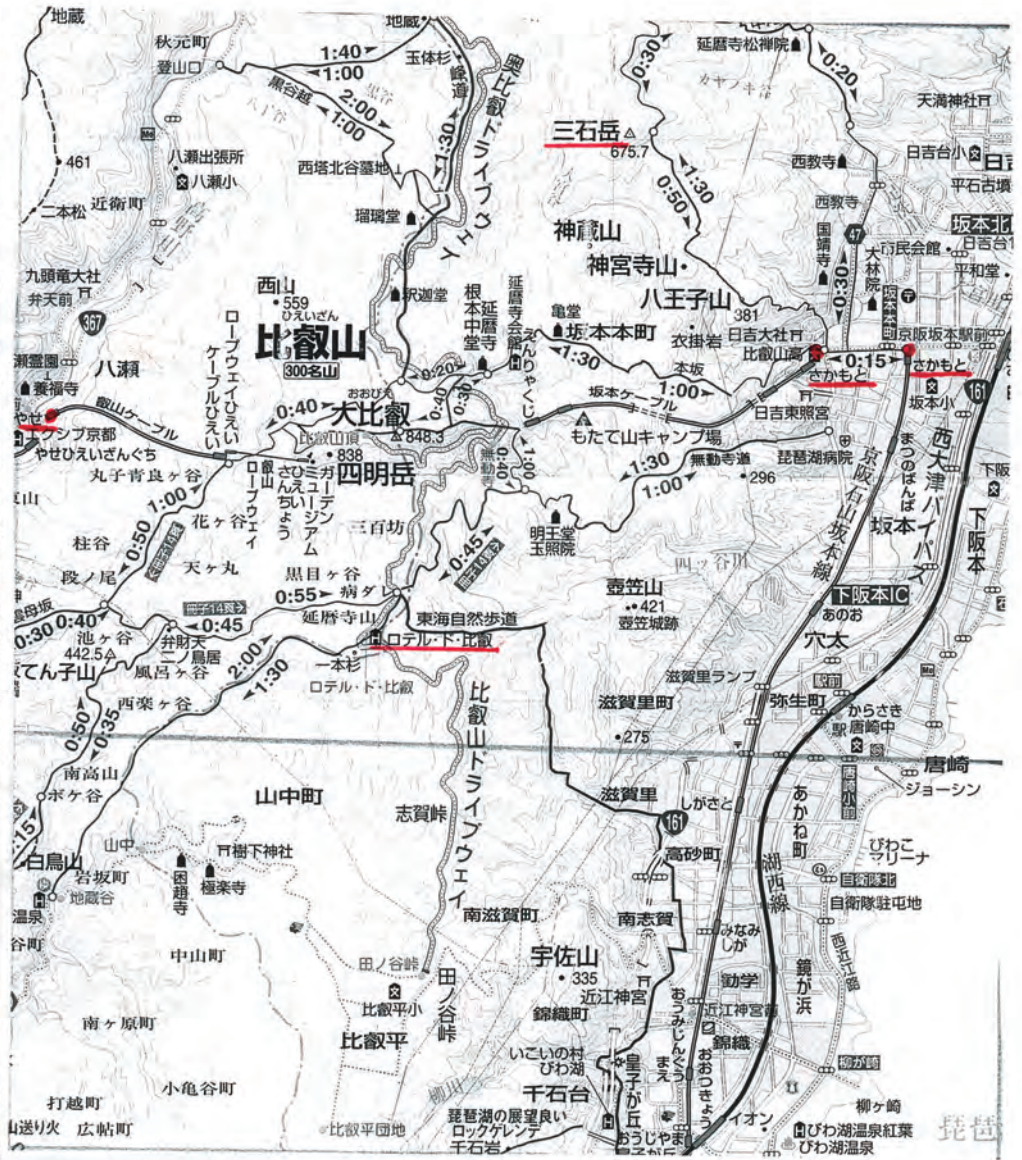
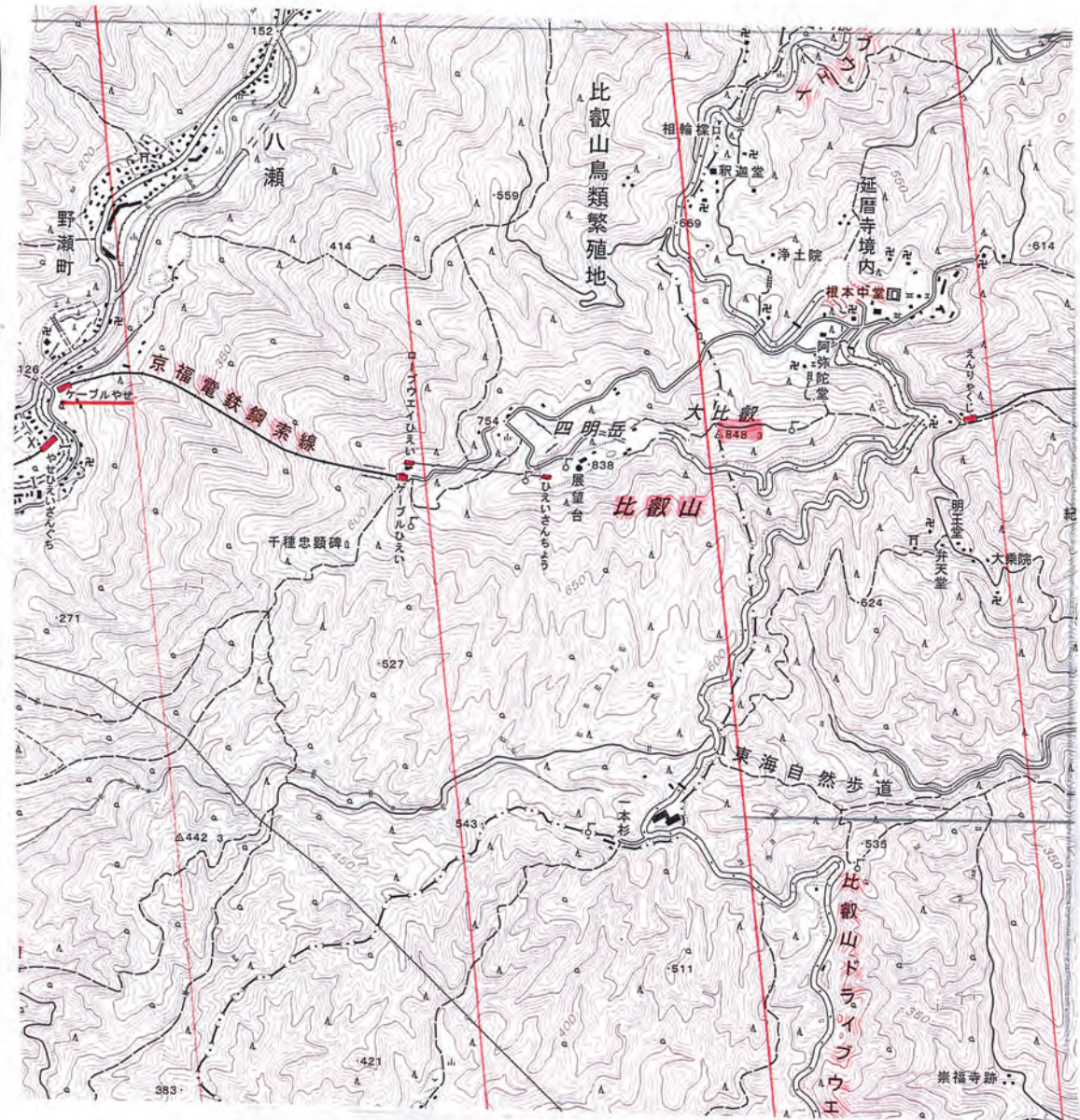
1:25.000

宝塚

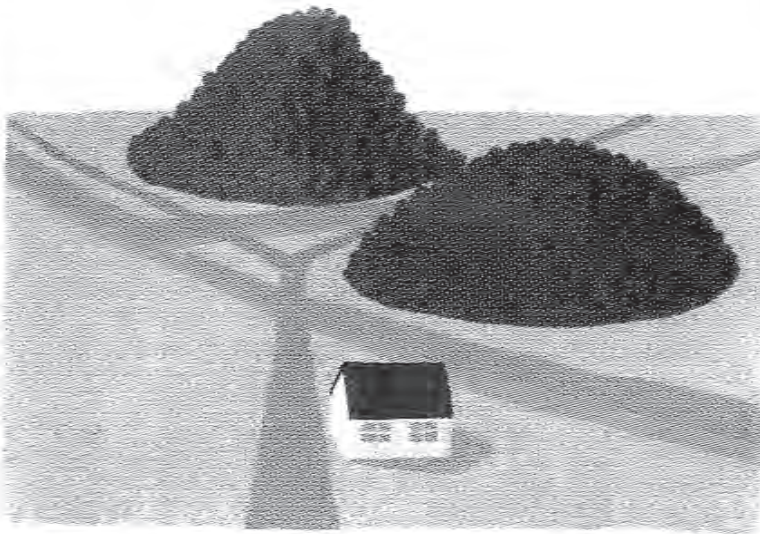


1:50.000

大阪西北部



風景と地図の向きを対応 (コンパス無しの整置)



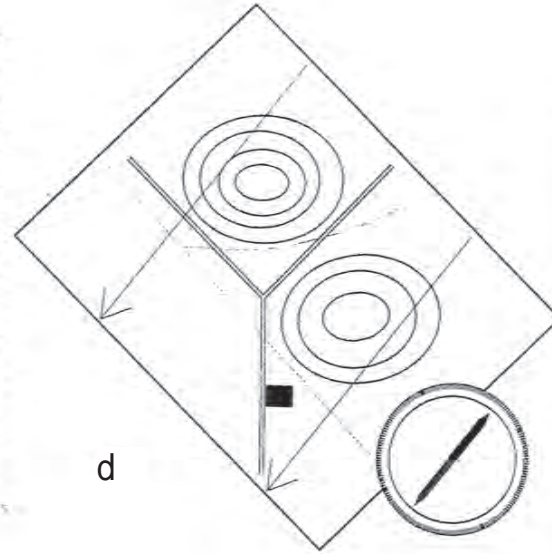
この風景が見える時、地図abのうち読みやすいのはどちらだろうか？

コンパスで整置をする。コンパスを地図に密着させて水平に持ち、真上からコンパスを見る

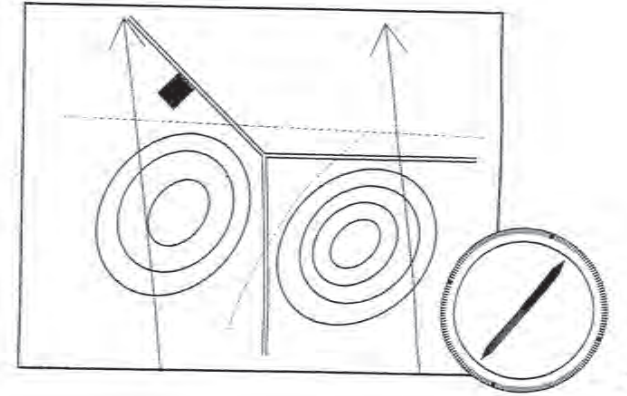


コンパスをそえるとこのようになる。整置された地図dでは磁針と地図の磁北線が平行になっている

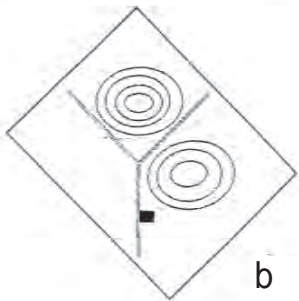
整置された状態の地図



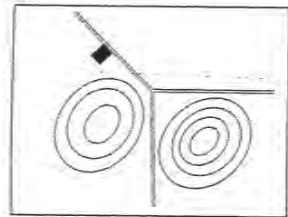
整置されていない状態の地図



見ている方向を 地図上の北を上向きにした地図 上向きにした地図



b

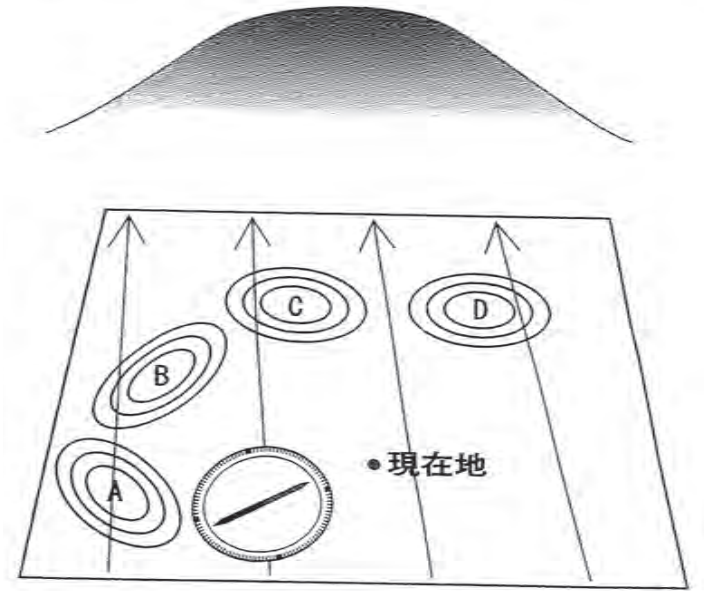


a

bは実際に右手にあるものが地図上でも右に、実際に左手にあるものが地図上でも左にあり。現地と地図を対応させやすい

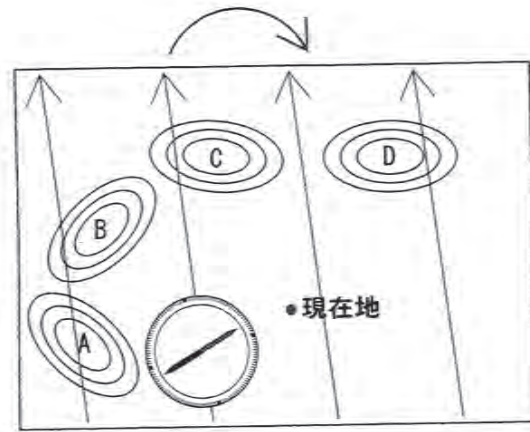
目標物を地図で確認する？
(磁針による設置①)

目標の山を正面にして地図を持つ

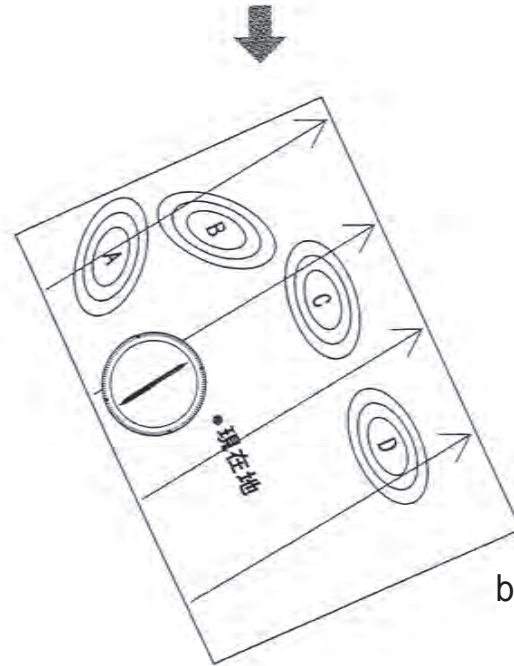


今、目の前に見えている山は、地図上のA~Dのどの山だろうか？

磁針と磁北線が平行になるように地図を移動

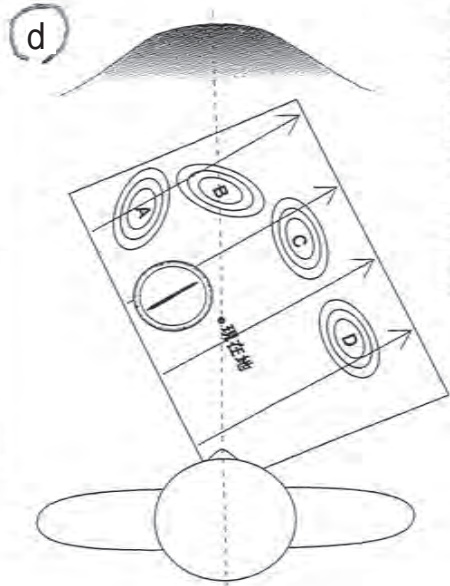
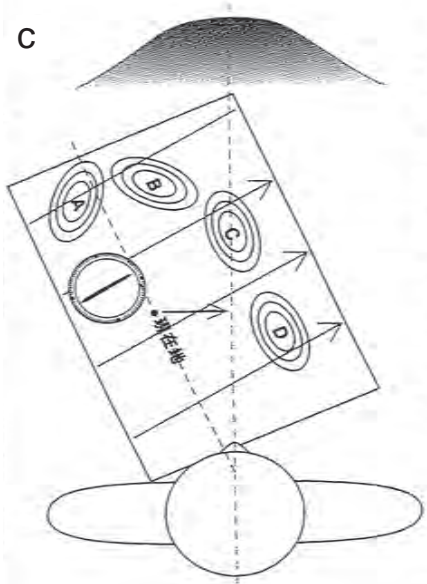


地図を赤矢印の向きに回す a



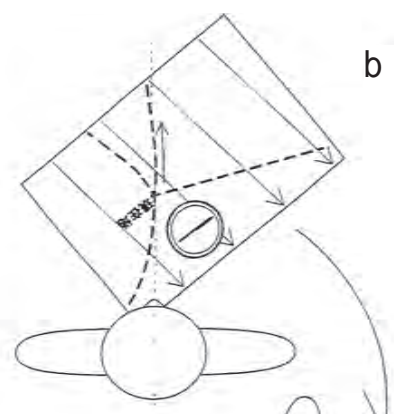
この状態になるように回す b

現在地が自分の正面になるように地図を移動



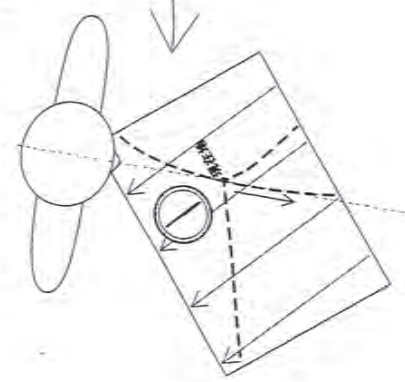
c

d

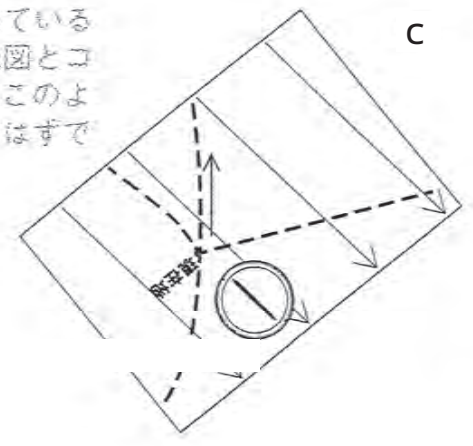


b

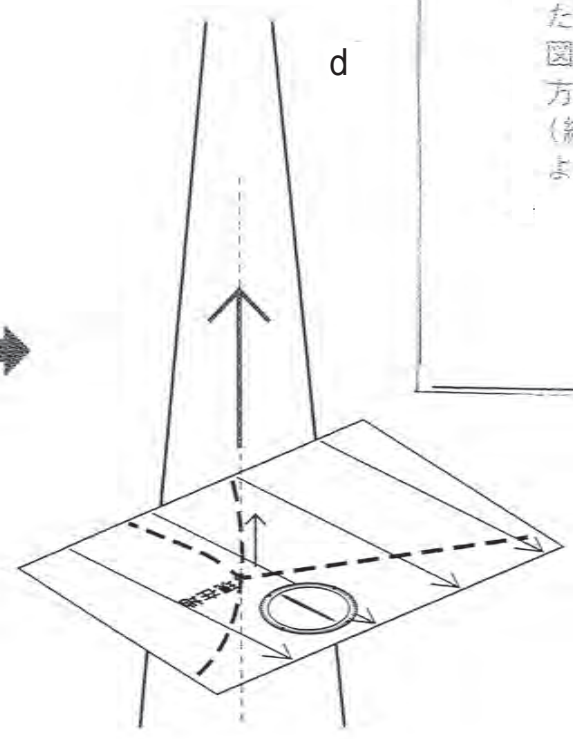
地図と体の位置関係を変えないようにして、磁北線が磁針と平行になるまで地図と体をセットで回転する



自分が持っている目の前の地図とコンパスは、このように見えるはずである



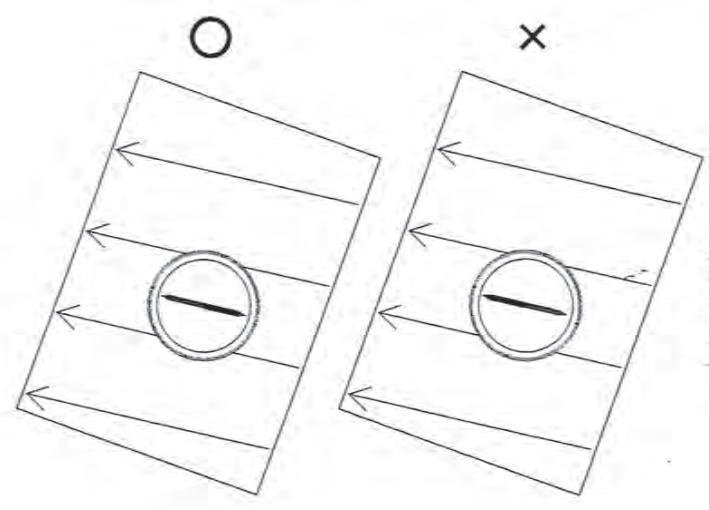
c



d

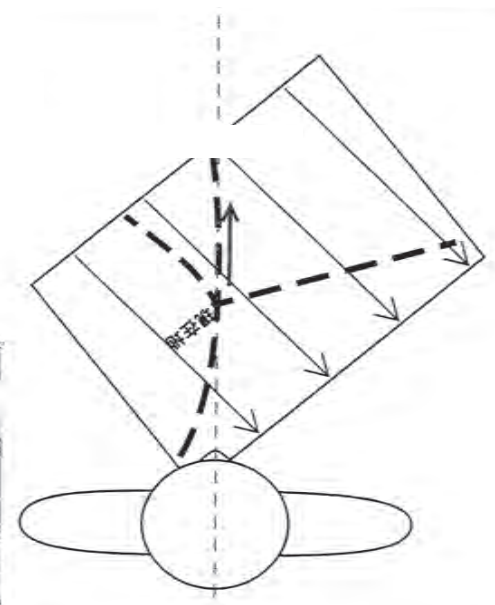
視線を上げて進行方向を確認すれば、進むべき道がのびているのが見える

「南北エラー」(逆整置)に注意



磁針のN極が磁北線の北を向いているよう必ずチェックすること

赤矢印の方向へ進みたい場合。まずは地図上の現在地と進行方向が体の正面方向(緑破線)に重なるようにする



a

地図から進むべき方向を決定する

(磁針による整置 ②)

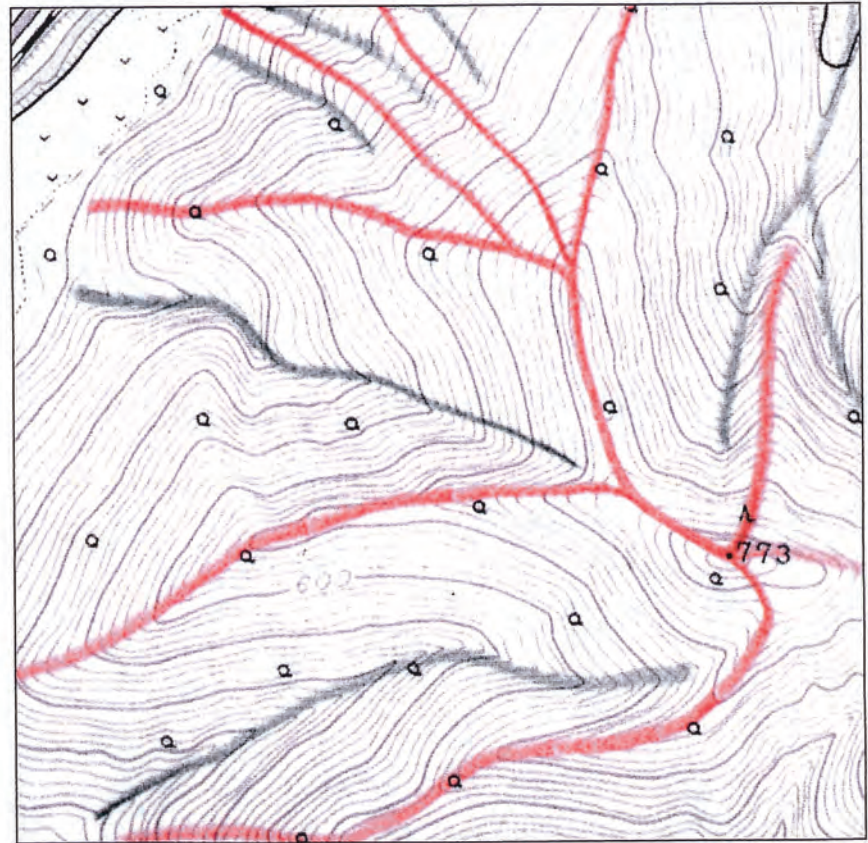


どっちが谷？ どっちが尾根？

地形図で、山地のおよその地形を読みとるには、山の尾根と谷をみわけることが必要です。

尾根は、ふった雨水がわかれるところです。山の頂から等高線がのびて、標高の低いほうにV字型にふくらんでいるところです。

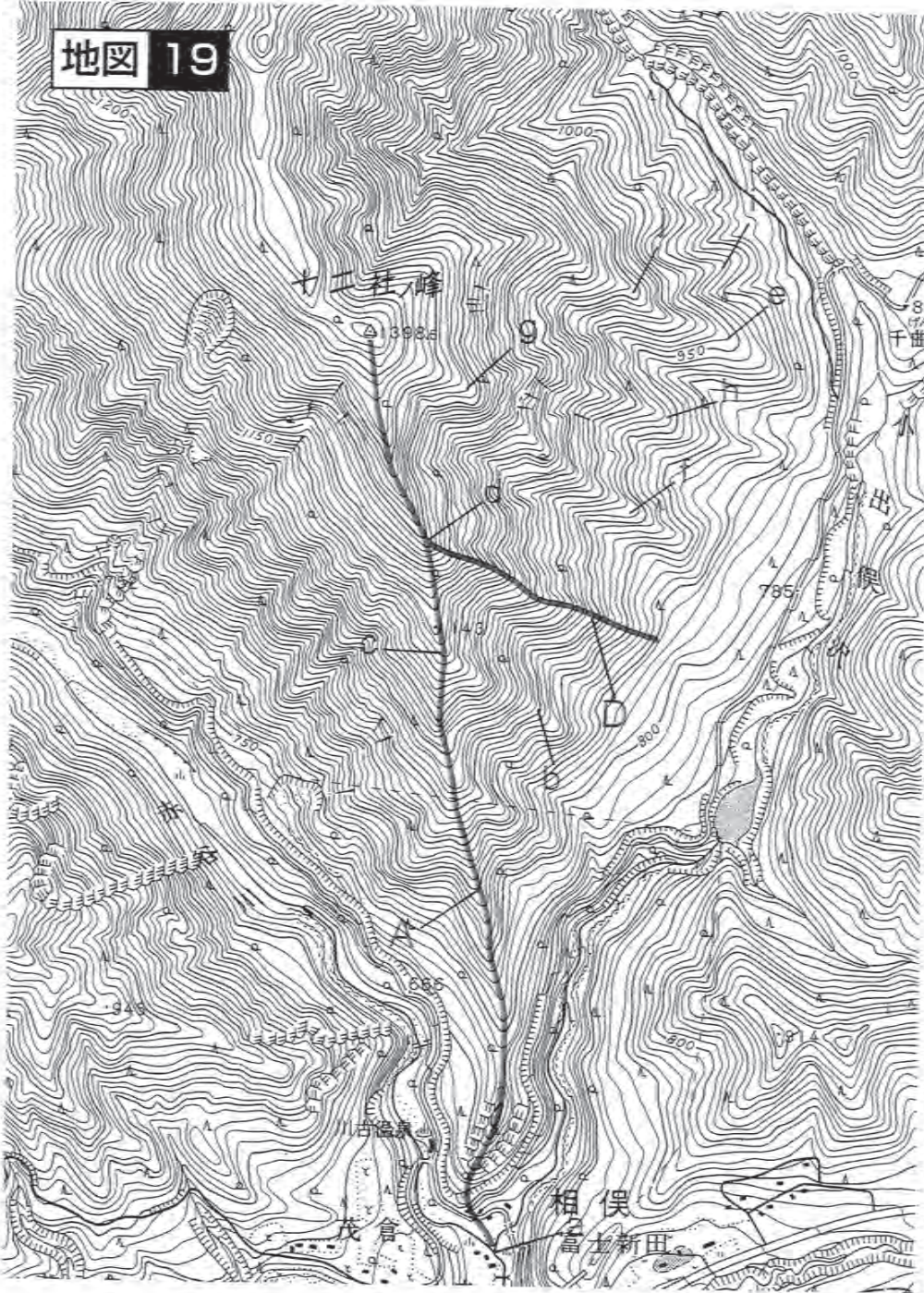
谷は、ふった雨水がながれ、あつまってくるところです。地形図では、標高の高いほうにむかって等高線が、V字型にならぶ地形です。



↑ 赤い線が尾根。青い線が谷。

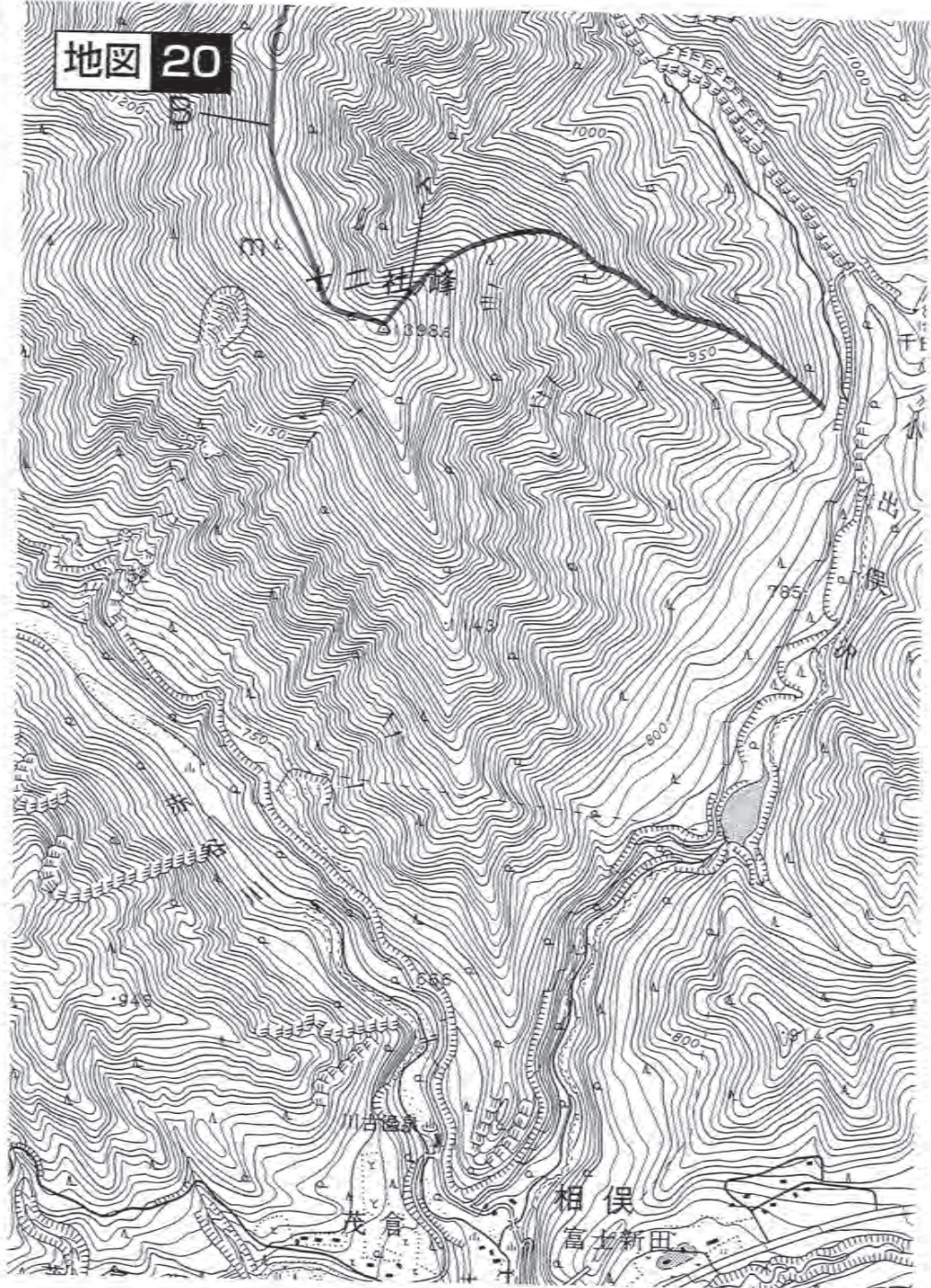
(国土地理院発行2万5千分の1地形図「白滝」)(×1.5)

地図 19



水上

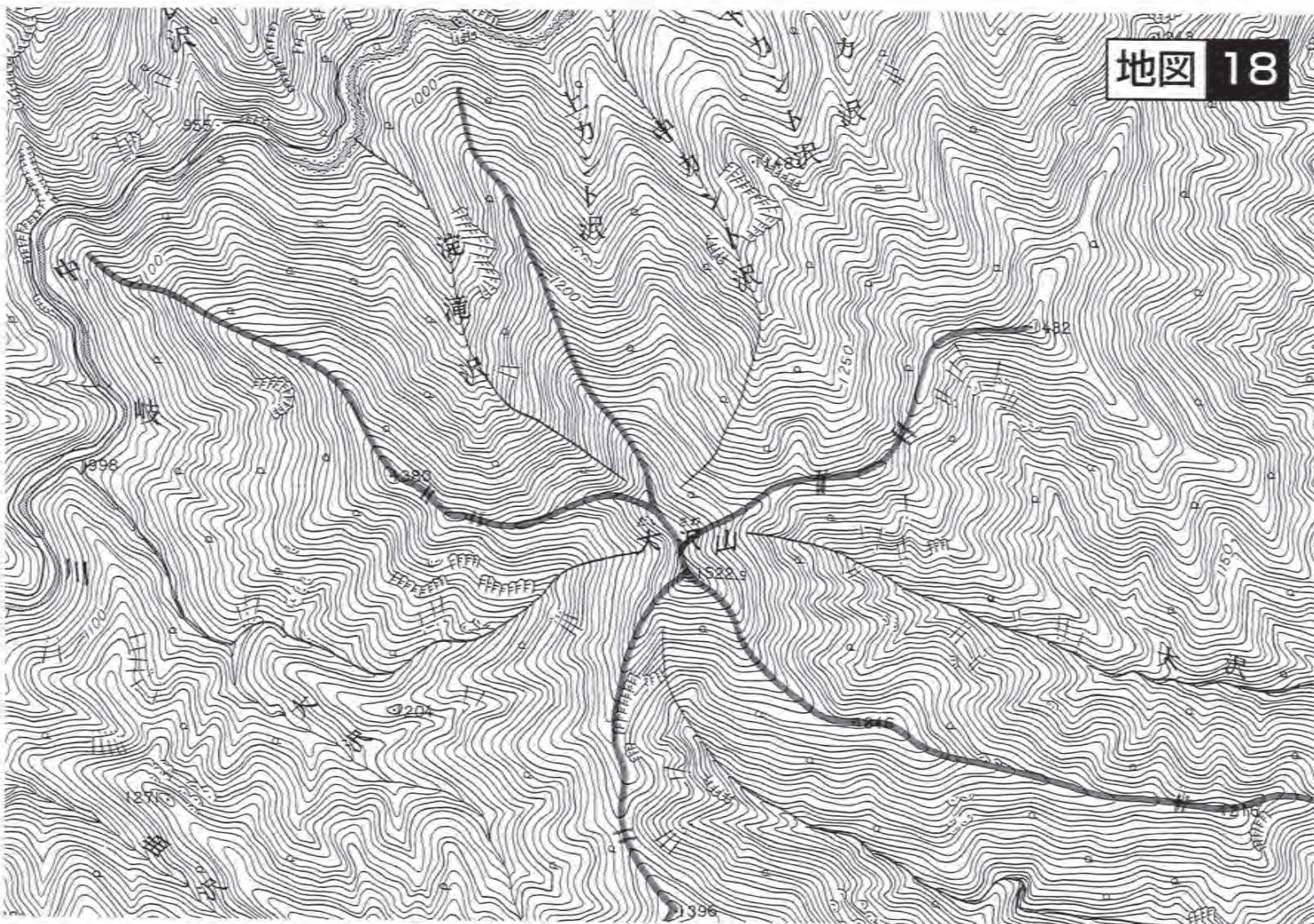
地図 20



水上



作並



平ヶ岳